

- 本県では、本格的な利用期を迎えた人工林資源の有効活用と、森林の有する公益的な機能の発揮のための森林整備の推進が求められており、林業就業者の確保と育成が課題となっている。
- そこで、県立農業大学校を農林大学校に改称した上で森林学科を設置して2年間の専門教育を行い、林業の現場で即戦力となる高度な知識や技術を備え、林業経営体の中核を担う人材の育成を行うこととした。
- 令和6年度は雨天練習場を設置し教育環境の拡充を図るとともに、令和7年度の学生募集を行った。

□ 事業内容

山梨県立農林大学校の森林学科運営

- ・ 学校運営
- ・ 実習機材等の備品購入、施設整備
- ・ 学科のPRと学生募集

【事業費】79,094千円（うち譲与税45,886千円）

【実績】・授業・実習経費、実習助手等人件費、校舎管理経費等
 ・実習用測量機材等、雨天練習場設置
 ・学校案内パンフレット、ポスター、リーフレット作成

□ 取組の背景

- ・人工林面積の約7割が本格的な利用期を迎えており、充実する森林資源の循環利用が求められている。
- ・一方で、県内の15歳から64歳の労働人口は、今後減少すると予測されており、これまで以上に担い手の確保と生産性の向上が課題となっている。
- ・更に、生産性の向上に向けては、高性能林業機械やICTを活用したスマート林業などに対応できる人材の育成が求められている。



授業風景



林業機械実習



森林調査実習

□ 工夫・留意した点

- ・併設する山梨県森林総合研究所の実習林や試験研究設備等の既存設備を活用するとともに、最新の知見や研究成果を活かした専門教育を実施。
- ・伐倒練習機によるチェーンソーの反復練習やハーベスタシミュレータによる操作訓練などにより効果的に技術を習得。
- ・レーザによる森林計測やドローンの操作など、スマート林業に関連する授業では、専門会社の技術者を招聘し、最新技術に触れる実習を実施。
- ・林業経営体と連携して実践的な実習を企画することにより、県内各地の多様な森林を体験。

□ 取組の効果

- ・令和6年度は16名の学生が1,200時間の専門教育を受け、林業の基礎知識と技術を習得し、現場に必要な各種資格等を取得し、9名全員が県内で林業に関連する職場へ就職した。（森林組合2名、民間事業体4名、コンサルタント2名、工務店1名）
- ・令和7年度の学生募集では5名が受験し、うち4名が第四期生として入学。

◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：64,453千円	②私有林人工林面積（※1）：58,219ha
③人口（※2）：809,974人	④林業就業者数（※2）：794人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2年国勢調査」より